

PYJ(Pharmacology Year of Japan)2022 基金趣意書



残暑の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より日本薬理学会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年 2022 年は 1969 年以来、53 年ぶりに年に 2 度の年會が開催される記念すべき年であることから、「日本における薬理学イヤー2022 年(PYJ2022)」と銘打つことと致しました。

このコンセプトのもと、転換期を迎えつつある薬理学を再認識し、改めて学会を活性化する目的で、3 月の第 95 回福岡年會および年末の第 96 回横浜年會の連携を中心に、本年開催の全ての地方部會をつなぐ複数の企画を実施致します。言わばオリンピックの聖火リレーのように、3 月第 95 回福岡年會を皮切りに、春の関東・近畿部會、秋の北・西南・近畿部會、そして年末の第 96 回年會/JPW2022 大会までを繋ぎ、全国の會員の皆様と一年を盛り上げてゆきたいと思ひます。

この PYJ2022 企画として以下のものを実施致します (一部実施済)

- ・ 両年會で同一演者 (満屋裕明氏) による基調講演と薬理学の未来を語る「アゴラ」企画
- ・ 本年開催の春年會・地方部會優秀発表者から、年間最優秀発表者を選ぶ「アワード企画」
- ・ 第 96 回年會 YIA 受賞者、学生優秀賞受賞者および年會アワード受賞者に対する研究助成

しかし 2020 年より続く新型コロナ感染症 COVID-19 は、本年 7 月頃より第 6 波を上回るペースでの感染拡大 (第 7 波) を生じました。本年 3 月の年會は第 6 波遷延の影響を受け事業収入の減少に加えて直前のハイブリッド開催への形式変更に伴い大きな財政的負担を強いられましたが、現在の第 7 波による今後開催予定の部會・年會運営への影響が懸念されます。

PYJ2022 企画実施に当たり研究助成・賞金、賞状・記念品、会場費等の経費が必要ですが、COVID-19 感染状況によっては、秋以降の部會・年會運営基盤となる参加者数に影響し、活動への支障を来す可能性がございます。そこで本企画を安心して円滑に実施できるための基盤として「PYJ2022 基金」を設けることと致しました。学会員の皆様におかれましては、本基金へのご支援 (1 口 10,000 円、1 口以上) をお願い申し上げます。詳細は学会ホームページ上にてご案内させていただきます。ご寄付を頂きました方のご芳名は、第 96 回年會プログラム集末尾に掲載致します。

尚、本基金へのご寄付は税制優遇措置の対象となりますことを申し添えさせていただきます。

本基金を PYJ2022 企画へ使用した後に残額が発生した場合には、未だに COVID-19 感染の影響が見通せず不安定な状況で開催される次年度以降の部會・年會の企画を支援するための基金として活用させていただきます。

皆様におかれましては、なにとぞよろしくご高配のほど、衷心よりお願い申し上げます。

令和 4 年 9 月

第 96 回日本薬理学会年會長 安西 尚彦
第 95 回日本薬理学会年會長 宮田 篤郎
公益社団法人 日本薬理学会理事長 赤羽 悟美